



2018年2月14日  
一般財団法人 児童健全育成推進財団  
ナイキジャパングループ合同会社

<報道関係各位>

## 児童健全育成推進財団とナイキが開発した運動遊びプログラム “JUMP-JAM”<sup>ジャンジャン</sup>新ゲームを 20 種類開発、全 50 種類に

一般財団法人児童健全育成推進財団（本部：東京都渋谷区、理事長：鈴木一光、以下児童健全育成推進財団）と、ナイキジャパングループ合同会社（本社：東京都港区、ゼネラル・マネージャー：小林哲二、以下ナイキ）は、パートナーシップを組んで実施している“JUMP-JAM”（ジャンジャン）プログラムに、新たに 20 種類のゲームを開発しました。今回開発されたゲームは、“JUMP-JAM”プログラムを実施している児童館の子どもたちの様子に合わせ、道具を使う遊びや運動量やスキルを要する高学年向けの遊びも含んでいます。2月より都内 35カ所の児童館で全 50種類のゲームを展開します。

“JUMP-JAM”プログラムは、子どもがより健康で幸せな生活を送れるよう、子どもの心身の発達に寄与すべく運動遊びに着目し、千葉工業大学 創造工学部体育教室 引原有輝 教授の監修のもと、児童健全育成推進財団とナイキが開発しました。2017年12月から東京都内 10カ所の児童館で始動。2018年6月に東京都内 25カ所に増え、12月より 35ヶ所の児童館で実施しています。

“JUMP-JAM”のゲームには、それぞれ最適年齢（低学年、中学年、高学年）と、「スタミナ（持久力）」や「チームワーク」といったキーワードが設定されており、“JUMP-JAM”プログラム実施時に、参加している子どもたちに応じて遊ぶゲームを決めています。世界的な目標値である 1日に少なくとも 60分、身体を使った運動・スポーツ・遊びを行っている子どもたちが日本は少ないという現状を受け、スポーツをより楽しむために求められる体力、俊敏性、筋力、協調運動能力を養えるだけでなく、子どもたちに必要な社会的、感情的スキルも養うことができます。ゲームの勝敗を重要視せず、他者との一体性や協働性を促し、子どもたち間の社交性を助長し、子どもたちが自ら考え、表現することを促します。

“JUMP-JAM”オフィシャルウェブサイト（URL：<https://jump-jam.jp/>）では、ゲーム内容の詳細や、児童館ごとの“JUMP-JAM”実施スケジュールのほか、ご家庭でもできる“JUMP-JAM”のゲームも紹介しています。

運動することが得意でも不得意でも、たくさん子どもたちにもっと身体を動かし、他の子どもたちと遊ぶ楽しさを知ってもらいたい。すべての子どもたちが自ら考え、輝くチャンスを与え、よりアクティブな人生を。そんな想いから、“JUMP-JAM”はこれからも子どもたちとともに、プログラムを広めていきます。

### 【児童健全育成推進財団 阿南健太郎総務部長 コメント】

この度、新たな 20のゲームを子どもたちに届けることができるのを嬉しく思っています。これで合計 50の JUMP-JAM オリジナルゲームが完成しました。多くの子どもたちや保護者のニーズに合わせて、児童館でゲームを活用していただくことを期待しています。

### 【千葉工業大学 創造工学部体育教室 引原有輝 教授 コメント】

JUMP-JAM の運動遊びや仕掛けは、運動が得意な子も、そうでない子も、みんなで一緒に楽しめるように工夫されています。遊びの場に集まった子どもたちが JUMP-JAM の遊び方やルールを自由にアレンジして、もっと楽しい遊びに作り変えてほしいと思っています。そして、一人でもたくさん子どもたちが、運動や遊びを通じて元気いっぱい過ごしてくれることを願っています。

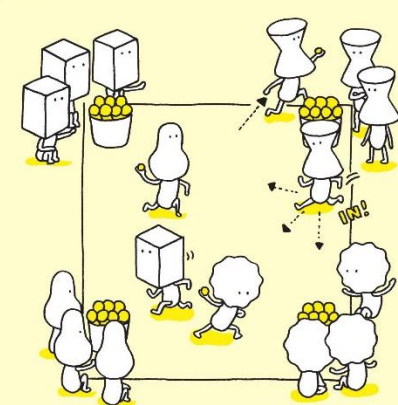
## 【新たに開発されたゲーム 20 種類】

- ・キューパス
- ・コールバレー
- ・トレジャーハント
- ・セレクトベース
- ・奪取ダッシュ
- ・キングタッチボール
- ・ニアボール
- ・ボールアルティメット
- ・王様しっぽ取り
- ・陣なしドッジボール (ストップドッジボール)
- ・戦国ドッジボール
- ・ターゲットボール
- ・ディスクテンパス
- ・ひっこし
- ・ナンバーコール
- ・ペアペアバスケット
- ・ねずみとねこ
- ・スーパー陣取り
- ・貼りオニ
- ・線上をかけるオニ

## 【ゲーム詳細 (一部)】

### 奪取ダッシュ

#### 遊び方



- 1 正方形のコートをつくり、それぞれの角にチームごとに立つ。
- 2 カゴに同数のボールを入れ、自チームの角に置く。
- 3 スタートの合図でチームからそれぞれ1人ずつ、ほかのチームのボールを取りに行く。
- 4 戻ってきたら、リレー形式で次の人がスタート。
- 5 1分間で一番ボールの多かったチームの勝ち。

#### アレンジ方法

- ・取ったボールをチームに投げ、メンバーがキャッチしたら次の人がスタート。
- ・ボールを変え、ドリブルしながら自分のチームに戻る。
- ・ボールを置きに行く(その場合、一番ボールが少ないチームの勝ち)。
- ・防御を入れる。(ライン上で試合させたら、ジャンケンなど)。
- ・2人同時に取りに行く。
- ・ボールの色を変え、点数をつける。
- ・1回で複数個持てる(落としたり戻す)。
- ・積み木を積む。
- ・他のチームを経由する。
- ・真ん中にすべてのボールを置き、そこから取ってくる。

#### 遊びの展開中にある気づき

- ・どのチームにボールが多いかを見極める。
- ・スムーズにリレーするにはどうすればよいか?

#### バリエーション


- ・ジャンケンで勝ったらボールを奪う。
- ・ジャンケンで勝った人は負けた人をメンバーにできる。
- ・ボールを変える(卓球ボール、お手玉、新聞ボールなど)。
- ・道具を使う(ホッケー、卓球ラケットに乗せる、下敷きなど)。
- ・ボールは、各コーナーだけでなく真ん中にも置く。


#### まとめの質問

- ・たくさんボールをゲットできたポイントは何か?

運動会: **2**

年齢: **低学年**

社会的スキル: 

身体機能: 

JUMP JAM

## セレクトベース

### 遊び方

- 1 ホームベースにティーに乗せたボールをセットする。
- 2 1塁線上には等間隔でコーンを並べておく。
- 3 バッターはボールを打ったら、コーンをリターンしてホームに戻る(どの距離のコーンなら戻って来れるか判断する)。
- 4 守備は、誰かが取ったボールを全員でタッチする(それまでにホームに戻れなければバッターアウト)。
- 5 全員が攻撃したら、攻守交代。

### アレンジ方法

- ・ボール、バットをハリセン等に替える(くじ引きで選ぶ)。
- ・コーンを1つにして、アウトになるまで何度も回る。
- ・前(バントエリア)や後ろ(広すぎる場合)をアウトゾーンにする。
- ・フープ敷色をコート内に置いておき、打つ前にバッターが色を叫ぶ。守備は指定されたフープにボールを運ぶ(全員または数名)。
- ・コーンに立てたフラッグを取ってくる。
- ・守備を減らして(7人中4名等)、1打者ごとに守備は1人交代。
- ・バッターはバットを、ピッチャーはボールをそれぞれくじ引きで引き、その組み合わせで打つ。

### 遊びの展開中にある気づき

- ・ボールが飛んだ距離と、自分が走る距離の感覚をつかむ。

### バリエーション

- ・屋外、屋内、それぞれでやってみる。
- ・遠くに飛ばしたいようであれば、バントエリアを大きく取ってみる。
- ・打つ、ボールにタッチする、以外の動きも取り入れてみる。

### まとめの質問

- ・どういふポイントが難しかったか。
- ・低学年も一緒に楽しむには、どうすればよいか。

セレクトベース  
 運動量: **2**  
 年齢: **低学年**  
 社会的スキル:   
 身体機能:

### ■ 児童健全育成推進財団 (FPSGC) について

FPSGC は、子どもたちの健全な育成を図るため、地域で活動する児童館・放課後児童クラブ・母親クラブの活動を支援しています。子どもたちの健やかな成長を支える遊びを児童館で提供することによって全国各地の子どもを育む環境を創ることに尽力しています。また、児童館スタッフの継続的な学びと成長の重要性を認識し、トレーニングやワークショップを通じてこれを支援しています。 <https://jidoukan.or.jp/>

### ※ 児童館について

0-18 歳までの子どもたちが、自由に無料で利用することができる施設です。各児童館では、専門職員(児童厚生員)によるさまざまなプログラムが実施され、遊びや運動、勉強をすることができます。児童福祉法で規定された児童福祉施設で、日本全国に 4,500 以上の児童館があります。子どもたちの健全な成長を推進する活動を実施することで地域社会に貢献しています。

“JUMP-JAM”を実施している東京都内 35 か所の児童館には、“JUMP-JAM”を実施するためのトレーニングを受けた専門の職員が配置されています。

### ■ ナイキ・コミュニティ・インパクトについて

ナイキは人間の可能性を解き放ち、コミュニティを形成する上でスポーツが持つ力を信じています。私たちはこの信念を、Made to Play というスポーツと遊びを通して子どもたちに体を動かしてもらい、より健康的で幸福な人生を送ってもらうための取り組みを行っています。地域のパートナーおよび世界中の社員とともに、世界中の 1600 万人以上の子どもたちを支援しています。 <https://communityimpact.nike.com/>

【報道関係者様からの問い合わせ】

JUMP-JAM 広報事務局(ひとしずく株式会社内) TEL.045-550-4141 FAX.045-330-6853  
 担当:たかはし/こくぼ メール: [press@hitoshizuku.co.jp](mailto:press@hitoshizuku.co.jp)